

支倉常長フェロー報告書

提出日 2010年 5月 26日



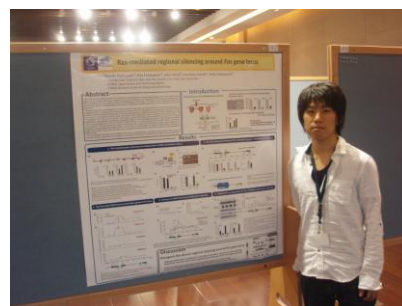
申請者	氏名	細金正樹
	所属・職	細胞増殖制御分野・大学院生
出張期間	2010年 5月 17日 ~ 5月 21日	
渡航先	中国・蘇州	
渡航目的	学会参加・共同研究のための留学・()	
発表演題名あるいは共同研究課題名	Ras-mediated regional silencing around <i>Fas</i> gene locus	

得られた成果など

真核細胞の遺伝子発現はゲノムの塩基配列 (genetic) 情報及び DNA メチル化を含めたゲノム配列によらない epigenetic な情報によって制御されている。Epigenetic 制御による遺伝子発現制御機構の解明は、ゲノムの塩基配列が全て決定された今、最も注目されている分野の一つである。今回、中国・蘇州で開催された Cold Spring Harbor Asia Conference (Epigenetics, Chromatin & Transcription)では、『エピジェネティクス、染色体構造と転写の仕組み』を専門とする 400 名の研究者が参加し、5 日間で口頭発表とポスター発表を合わせて 150 の研究演題に対して綿密な議論が行われた。



私はポスター発表において、我々が新規に発見した『がん遺伝子 Ras が広範囲なクロマチン領域の転写を抑制すること』を世界に先駆けて発表し、著名な先生方と議論を交わすことができた。特に、epigenetic 制御を近接した遺伝子群全体に及ぼす分子機構に関して多くの質問を受け、自身の研究の問題点を他の研究者の客観的な視点から再認識できたことが一番の収穫となった。



ゲノムワイドな epigenetic 制御機構は、次世代シーケンサー等の網羅解析の技術革新により詳細な解析が可能となってきている。本学会においても、epigenetic 制御の網羅解析結果が多く発表されており、徐々に真核細胞のゲノムにおける全体像が徐々に明らかになってきている。多くの競合する研究を目のあたりとし、改めて競争の激しい研究領域であることを感じた。また、議論の過程で多くの研究者と知りあうことができた。特に、中国、韓国含めアジア諸国の若手研究者の研究に対する姿勢は大きな刺激となり、今後の自身の研究に活かしていきたいと思う。

- ※ 帰国後 10 日以内に報告書を提出してください。HP に掲載することがあります。
- ※ 可能であれば顔写真、学会風景写真を添付してください。
- ※ 用紙が不足する場合は、適宜加えてください。